平成２９年度　自己評価計画書　（最終評価）

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画書）
1	生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力を身に付けさせるとともに、表現する力・伝える力を育成する。	①生徒に興味・関心を持って授業に取り組ませ、学力向上を図る。	教務課 各教科	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が、 A　９０%以上である B　８０%以上である C　７０%以上である D　７０%未満である	評価がＣ、Ｄの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：**B** 生徒による学校評価アンケート結果 全体８２% １年７７% ２年８３% ３年８７%	前期同様、１年生が他の学年と比べ低い値を示している。専門教科の学習に慣れていないのではとの仮説を立て、補習等力を入れたが改善が見られなかった。しかし、「ＩＣＴ機器を積極的に利用している」９１%や「授業を集中して受けることができている」８７%（授業評価アンケート）からみて、ＩＣＴを活用するなど生徒の意欲関心を高める授業展開がなされていることがわかる。次年度は、授業の質を高める授業改善に努めていきたい。
		②他の意見・考えを教えあう「学び合い」（言語活動）を取り入れた授業を推進する。	教務課 各教科	「学び合い」（言語活動）に重点を置いた授業を実践した教員の割合が、 A　７０%以上である B　６０%以上である C　５０%以上である D　５０%未満である	評価がＣ、Ｄの場合、改善策を検討する。	前期、後期に教職員を対象にアンケート調査	評価：**A** 教職員による学校評価アンケート結果 ８３%	生徒による授業評価アンケートでは「生徒が積極的に質問するよう配慮している」７２%や「自分で考え取り組む場面や生徒同士が話し合う機会など、生徒主体の授業がなされている」７３%など、言語活動の充実を図る学習活動の工夫がなされていることが読み取れる。今後とも、生徒に言語に関する関心や理解が深まるよう努力したい。
		③授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	教務課 各教科 各学年 生徒指導課	「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A　８０%以上である B　７０%以上である C　６０%以上である D　６０%未満である	評価がＣ、Ｄの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：**C** 生徒による学校評価アンケート結果 全体６０% １年５７% ２年５４% ３年６９%	前期評価６０%を受け、「表現する力・伝える力」とは仲間とのかかわりの中で伸びるものであると考え、１人では充分な答えが出せない課題をみんなで解こうとする場面など環境づくりに力を注いだが評価は向上しなかった。目指している力が身に付いたかどうか、教員側・生徒側の両方から分からなければならない。その意味において、評価のあり方は重要であり、次年度は、授業や学校行事での到達目標をしっかり示すなど、生徒自身に表現する力・伝える力の向上を感じさせていくための評価に工夫を凝らしたい。
		④各種検定試験を通して学習意欲を高める。	教務課 商業科	３年生の１級３種目の取得者が、 A　１８０人以上である B　１６０人以上である C　１４０人以上である D　１４０人未満である	評価がＣ、Ｄの場合、指導方法及び内容を検討する。	年間を通じて調査	評価：**B** ３冠以上　１６３人	３冠以上取得の生徒数は昨年度を約２０人下回った。２年時までの３冠以上取得生徒数が昨年卒業生１４３人に対して、現３年生１０６人とこの差が最後まで縮まらなかった。２年時までの取得者を増やすことが今後の課題である。

学校関係者評価委員会の評価	ＡＩが台頭する中でコミュニケーション能力は大切であり、「表現する力・伝える力」は今後も必要となる力である。継続して重点目標としていってほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	挨拶・笑顔を本校生の一つの強みとしながら、主に実学をとおして「表現する力・伝える力」をさらに伸ばしていく。

平成２９年度　自己評価計画書　（最終評価）

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画書）
2	ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	①相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができた生徒の割合が、 A　９５%以上である B　８５%以上である C　７５%以上である D　７５%未満である	評価がＣ・Ｄの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：**B** 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体９０% １年８７% ２年８８% ３年９４%	後期アンケート結果によりＢ評価以上の割合は前期と同じ９０%であった。学年別に見ると１年生が９０%から８７%に下がり、３年生は９３%から９４%に向上していた。毎日の登校指導で挨拶指導は行なっていたが、季節柄指導が少し不十分であったと感じている。今後は校内の中で指導が行きわたるよう学年や教科担当を通じてさらなる連携を図っていく必要がある。
		②生徒指導が主となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻０の徹底を推進していく。	生徒指導課	遅刻０の日が年間を通じて、 A　１２０日以上である B　１００日以上である C　８０日以上である D　８０日未満である	評価がＣ・Ｄの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査	評価：**A** ３月終業式までに遅刻０の日１３４日	年間をとおしての遅刻０の日数が１３４日である。前年同期と比較すると大幅に増加した。一昨年から実施している生徒玄関８時２５分登校が定着してきた現れであると考えられる。また、昨年まで特定の生徒が遅刻を重ねることが多かったが、遅刻に伴う反省文の指導などを徹底したことで遅刻を重ねる生徒を減少させることができた。
		③実践教育とマナー教育の一環である金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かせた生徒の割合が、 A　９５%以上である B　９０%以上である C　８５%以上である D　８５%未満である	評価がＣ・Ｄの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査	評価：**C** 生徒による学校評価アンケート結果 全体：８９% １年：８７% ２年：８４% ３年：９６%	昨年度の全国産業教育フェア石川大会で学校を離れての開催であったため、本校で行うのは２年ぶりとなった。そのため、特に２年生については、昨年度との取り組みに戸惑いが出たようである。しかしながら、１万人以上の来客を迎え、次年度に向けての意欲も感じられる。生徒の自主性も発揮しつつ、この行事を実践教育という枠組みの中で内容の充実を今後考えていきたい。
		④英語のコミュニケーション能力の向上に取り組む。	英語科	全商英検２級（またはそれと同等の資格）以上を取得した人数が、 A　１００名以上である B　８０名以上である C　６０名以上である D　６０名未満である	評価がＣ、Ｄの場合、英語学習が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	全商英検２級（またはそれと同等の資格）以上の合格者数を調査	評価：**A** 全商英検 ２級１２３名 １級　１０名 実用技能英語検定（９月と１２月分） 準２級　３名 ２級　４名	１年生の夏季休業課題として全商英検問題集を与え、全学年を対象に夏期補習を行い、試験前には朝補習、朝学習、放課後学習、ＬＨでの過去問練習など、あらゆる手段を利用して受験に臨ませた。これらのことが功を奏してよい結果に繋がった。来年度も今年度のやり方を踏襲したい。また、実用英語技能検定（ステップ英検）の準２級以上の合格者が増えるよう、生徒の英語力向上に努めたい。

学校関係者評価委員会の評価	基本的生活習慣をつけることはすべての教育の充実の基礎となるものである。その要素の一つである遅刻０の日数は大変評価できる結果である。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	個々の教育目標の基盤となる遅刻０の徹底は継続して取り組んでいく。

平成２９年度　自己評価計画書　（最終評価）

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画書）
3	生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	①就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課（就職）	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A　９５％である B　９０％以上である C　８５％以上である D　８５％未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、２・３年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：**D** 生徒による学校評価アンケート 全体７９％ ２年５９％ ３年９８％	２学期までは３年生の進路実現が最優先されるため、３年生向けの進路ガイダンスの充実を図り、またＯＢ・ジョブカフェと連携した面接指導の強化により、３年生の希望職種への進路実現に結びつくことができた。さらに、就職内定後の指導として、今年度初めて企業の方による講演会を実施することができ、生徒は入社するまでの準備、入社してからの心掛けること等を学ぶことができた。２年生については、２学期は３年生への進路指導が主体であったため、あまりガイダンスを実施できなかった。しかし、３学期以降来年度に向けて、進路に対する意識の高揚に繋がるようなガイダンスを学年と連絡を密にして実施したい。
		②進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進路指導課（進学）	進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組み、学力向上に努めたと答えた生徒が、 A　８０％以上である B　７５％以上である C　７０％以上である D　７０％未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、２・３年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：**A** 生徒による学校評価アンケート 全体８５％ ２年７７％ ３年９３％	３年生の評価が他学年よりかなり上昇しているが、進路ガイダンスや上級学校へ向けての指導が、３年生に最重点が置かれてしまうことに起因している。２年生も、昨年度よりガイダンス等を増やしたが、実施時期が検定等の日程と絡んだことより、充実感が低かったのではないかと考えている。なお、今年度は今までになく安全志向が働き、指定校推薦の利用者が多く、能力に恵まれながらも難関私大や国公立大の受験に挑戦する者自体が少なかった。しかし、例年以上に十分な個別指導を行い、十分に成果は上がったと考えている。今後の課題としては、２年生へのガイダンスの時期を再考することと、回数を増やすこと、また、難関校に挑戦できそうな者や全国展開できそうな者への積極的な受験の勧誘を、早期より行っていくことである。
		③１年生に対して進路ガイダンスを計画的に行ない、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課第１学年	１年生において、希望する進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A　８０％以上である B　７０％以上である C　６０％以上である D　６０％未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、１年生の生徒対象にアンケートを調査	評価：**B** 生徒による学校評価アンケート ７７％	前年度は６１％であったが、今年度は７７％と数値は向上した。今年度は１年生の早い段階で進路に対する意識を高めるために、職業探求のガイダンスを１０月に実施し、生徒の進路希望を具体化することができた。さらに、検討を重ね、早期に進路希望が明確になるような内容を考えていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	２年生時点で自分のキャリアデザインを描くことは大変難しいのではないか。追及はしていってほしいが、評価の対象としては最終学年での取り組み・実績でも良いのではないか。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	１・２年生では進路ガイダンス等は継続して取り組んでいくが、評価の対象としては３年生のみとすることも検討する。

平成２９年度　自己評価計画書　（最終評価）

石川県立金沢商業高等学校

No. 4

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画書）
4	心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	①運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	県大会でベスト４以上の運動部が、 A　９部以上である B　８部である C　７部である D　７部未満である	評価がＣ・Ｄの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：**A** 大会報告書による調査	女子バレーボール部と少林寺拳法部は総体は新人大会とも優勝し、新体操部、馬術部が総体で優勝した。その他にも、男子バレーボール部、ソフトテニス部、女子バスケットボール部、バドミントン部、ハンドボール部、駅伝部が県大会でベスト４以上の成績をおさめることができた。石川県総合成績では女子は第５位、総合で１１位であったが、まだまだ上位入賞を目指せる部活動も多く、次年度以降の活躍に期待したい。
		②文化部・商業部の県大会（総文･新人）において団体優勝のべ４競技以上を目指す。	特活課 商業科	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A　のべ５競技以上である B　のべ４競技以上である C　のべ３競技である D　のべ２競技以下である	評価がＣ・Ｄの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：**A** 大会報告書による調査	商業部の活躍が見られた。県大会および新人大会で優勝した競技は、珠算、電卓、ワープロであり、団体および個人で優勝している。また、簿記、英語については新人大会で団体および個人で優勝している。文化部においても、写真部、吹奏楽部、かるた部、吟詠剣詩舞が全国大会出場、合唱部が金賞と活躍した１年であった。次年度以降にも活躍に期待したい。
		③各種委員会･生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	各種委員会･生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A　８０％以上である B　７０％以上である C　６０％以上である D　６０％未満である	評価がＣ・Ｄの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：**C** 生徒による学校評価アンケート 全体６９％ １年６３％ ２年７０％ ３年７３％	全校生徒のボランティアに対する意識はまだまだ乏しいものとなっており、ボランティア委員会による活動は年１回、各部活動による活動も年２回、１１部（３６部中報告済）に留まっている。一方、各団体、地域住人から感謝の礼状などが複数寄せられるなど、ボランティア精神が発揮された場面も見られ、これらの個々のボランティア活動が学校全体の活動に繋がるよう啓発活動を行っていきたい。
		④校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。	保健課	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりできる生徒の割合が、 A　９８％以上である B　９５％以上である C　９０％以上である D　８５％未満である	評価がＣ・Ｄの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：**C** 生徒による学校評価アンケート 全体９４％ １年９４％ ２年９４％ ３年９３％	清掃やごみ収集の分別等は、おおむね満足できるものである。節電に関しては７月～９月の電気量を比較すると少し下がっていたが、天候等によるものが大きいので、節電等の意識向上につながっているとは必ずしも言えない。ごみの分別や節電等は、絶えず呼び掛けしていく必要がある。評価Ｃではあるが、昨年より目標をかなり高くした結果であり、今後も１００％を目指していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	部活動の成果はしっかり出ている。 ボランティアは機会を与えないとなかなか実践できないのが実情ではないか。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	教員の働き方にも考慮しながら、実績が上がるよう、効率的な練習計画を練っていく。 ボランティアは、部活動等をとおして年に数回の機会を与えていく。